

## 第 13 回 三重河川流域委員会 議事要旨（案）

日時：平成 27 年 9 月 8 日（火）10:00～12:00

場所：プラザ洞津 孔雀の間

### 1. 開会

### 2. 挨拶

### 3. 議題

#### （1）第 12 回三重河川流域委員会の議事要旨の確認（資料－2）

第 12 回三重河川流域委員会の議事要旨について報告し、確認された。

#### （2）鈴鹿川の現状と課題について（資料－3）

- ・ P3 これまでは流路周辺の歴史や文化・動植物を念頭にしていたが、流域ということであればより多くの文化財や天然記念物があるため、そういった情報も入れていただきたい。

→流域の中の特に水に関するような情報等及び文化財のものについては記載したいと思う。情報等、先生方にご相談させていただきたい。

- ・ P30 鳥の生息確認種数の整理において、種数と数だけではなく、陸域の種と水辺の種という 2 つに分けていただきたい。
- ・ P30 外来種と在来種を分けて整理して欲しい。
- ・ P31 重要種の確認種数は、既存の調査結果を国・県の新しいレッド・データ・ブックの内容で整理していただきたい。

→そのように整理していく。

- ・ P30 頭首工については、流水だけでなく、砂の堆積状況を見据えながら、土砂の管理についても考えていくべき。
- ・ 頭首工を改築する場合は、土砂を排出する対策も考えていくべき。  
→固定堰改築も見据えた調整を行い、現状と将来の予測も見ながら、慎重に検討していきたい。

- ・ P30 魚道の機能を検証したうえで、魚道の必要性について整理していただきたい。

→川の連続性を考え、管理者と連携しながら、調整していく。

- ・ 鈴鹿川では伏流水が取水されるなど非常に重要であるため、詳しく調査して頂きたい。

→調査を進めていきたい。

(3) 鈴鹿川水系河川整備計画(骨子(案))について(資料-4)

- ・ P6 治水目標は、基本方針流量を対象とした整備とするのか。  
→そこまで一挙に治水安全度を押し上げることは難しいため、概ね30年確率を見据えた整備として、目標流量の設定を考えている。
- ・ P8 大規模地震の規模はどの程度を考えているか。  
→東海・東南海・南海地震の3連動地震を想定しているが、今年度以降、新たな情報も加味し、考え得る大規模の状況というの見直ししながら進めていきたい。
- ・ P8 兼用道路が40%もあると聞いているが、自動車が走行することによる堤防の劣化は、堤防の維持管理の観点で考慮しているのか。  
→そのような状況も把握し、道路管理者と調整を進めるなどしていきたい。
- ・ P13 丸で囲んでいる箇所は、流下能力が足りないため整備を行う必要がある、ということか。  
→そのとおりである。
- ・ P16 正常流量の設定に向けた取り組みとして、ここまで実態把握をしっかりやっているのは整備計画としては珍しい。今後もしっかりやっていただきたい。
- ・ 伏流して瀬切れが起きるような河川で、正常流量をどう考えるかは非常に難しい問題だが、現時点ではどう考えているか。  
→魚の生息場として、川の特徴である瀬切れまで踏み込んだ形でたまりの状態の保持を考えながら行くのか、また、地下水の動態もしっかり見据えた中で検討すべきかなど、さまざまな検討項目をしっかりモニタリングしながら、正常流量を設定していきたい。
- ・ 維持管理の問題として、不法行為に対する監督、指導といったものが指摘されているが、現状で堤防や河川敷における不法占拠・占用はあるのか。  
→一定数、存在する。

(4) 今後の予定について(資料-5)

- ・ 次回流域委員会にて、骨子について報告する。
- ・ 骨子作成は「ふれあい懇談会」、行政会議も見据えて進めていく。

4. 閉会

以上